

## 災害に強くなりたい

「『ロケットストーブ』は枯れ木などを燃料に、暖をとるだけではなく、お湯を沸かすことができます。災害発生時に、非常食として備蓄されているアルファ米などを温めることもできるなど、さまざまな応用が利くものなので、多くの人に知ってもらいたい」。

平成24年11月27日に発生した大規模停電の際に、炊き出しなどもっと地域で対応できることがあったのではと感じていた工藤さんは、被災時にも簡単に作成できる『ロケットストーブ』を普及させる取り組みを始めたといいます。



▲総合防災訓練で、ロケットストーブの製作を実演する登別室蘭青年会議所の会員

域の中で誰か一人でも作る事ができれば、温かいご飯を食べたり、暖まったりすることができます。『自助・共助』への取り組みの一つとして、災害に強いまちづくりが進むと考えています」と思いを語る工藤さん。

## つながりがまちづくりを活性化

市から依頼を受け、総合防災訓練に参加することとなったという工藤さんは、「以前、『ロケットストーブの製作体験』を開催したときに、市の防災担当者に講話を願ったことがあり、そのつながりで活動の場を与えてもらったと思っています。いろいろな機会でのつながりが、さまざまなまちづくりへの取り組みを活性化してくれます。インターネットの普及などにより、つながり方は多様化していますが、やはり顔と顔を合せて話すことも大切ではないでしょうか」と、人と人とのつながりの大切さについて伝えてくれました。

登別室蘭青年会議所などの活動を通して、これまでの取り組みや日々の生活の中でできたつながりを大切に、これからもさまざまなまちづくりに取り組んでいきます。

# きらり

KIRARI

く どう たか ゆき  
**工藤 隆行**さん

9月30日(土)に、登別地区を舞台に行われた総合防災訓練。多くの関係機関が参加し、高台への避難訓練や孤立避難者の救出訓練、そしてさまざまな体験や展示などが行われました。その中の一つ、『ロケットストーブの製作体験』を実施した登別室蘭青年会議所。なぜ『ロケットストーブ』だったのか、今回は普及活動に取り組む工藤さんに伺いました。

## 人と人とのつながりを大切に



昭和52年、室蘭市生まれ。40歳。

友人の勧めで、平成23年1月に登別室蘭青年会議所に入会し、現在、副理事長を務める。広告物の制作などを行う(有)富士工芸社を経営しながら、日々まちづくりに取り組む。